

【席 順】

	紅 谷	和 田	太 田	新 田	鈴 木	中 野		
泰川	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div>						川島	
外山							原口	
山岡							小倉	
田島							市原	
白髭							木村	
満岡							川越	
伊藤							英	
二ノ坂							前川	
	石 坂	石 賀	吉 田	永 井	亀 井	野 田	大 石	小 笠 原

日 時	2016年 3月12日 (土) 12:30~13:20		
場 所	ステーションコンファレンス東京 606		
出席者	新田 國夫	東京	新田クリニック
	鈴木 央	東京	鈴木内科医院
	太田 秀樹	栃木	医療法人アスムス
	川島 孝一郎	宮城	仙台往診クリニック
	和田 忠志	千葉	いらはら診療所
	中野 一司	鹿児島	ナカノ在宅クリニック
	小倉 和也	青森	はちのへファミリークリニック
	市原 利晃	秋田	秋田往診クリニック
	木村 幸博	岩手	もりおか往診クリニック
	川越 正平	千葉	あおぞら診療所
	英 裕雄	東京	新宿ヒロクリニック
	前川 裕	富山	前川クリニック
	大和 太郎	石川	やまと@ホームクリニック
	小笠原 文雄	岐阜	小笠原内科
	大石 明宜	愛知	大石医院
	亀井 克典	愛知	きくぞの内科在宅クリニック
	石賀 丈士	三重	いしが在宅ケアクリニック
	紅谷 浩之	福井	オレンジホームケアクリニック
	永井 康德	愛媛	たんぼぽクリニック
	吉田 大介	徳島	徳島往診クリニック
	二ノ坂 保喜	福岡	にのさかクリニック
	伊藤 大樹	福岡	あおばクリニック
	満岡 聡	佐賀	満岡内科消化器科医院
	白髭 豊	長崎	白髭内科医院
	田島 和周	熊本	田島医院
	山岡 憲夫	大分	やまおか在宅クリニック

出席者	外山 博一 宮崎 外山内科神経内科医院 泰川 恵吾 沖縄 ドクターゴン診療所
陪席	野田 正治 愛知 野田内科小児科医院 石坂 裕司郎 宮崎 四季クリニック 原口 真 国立長寿医療研究センター
議題等	<p>1 開会 挨拶 新田國夫会長</p> <p>2 新世話人紹介</p> <p>3 出席世話人の近況・活動等 報告</p> <p>4 議事</p> <p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 事務局 ◎ 教育・研修局 報告 ◎ IT・コミュニケーション局 報告 ◎ 調査・研究局 ◎ 第3回（平成27年度）全国大会について 平成28年3月12日・13日 東京 ◎ 第4回（平成28年度）全国大会について 平成28年7月2日・3日 名古屋 ◎ 第5回（平成29年度）全国大会（第1回 在宅医歯薬連合会全国大会） 平成29年5月27日・28日 東京 ◎ その他 <p>【協議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 新世話人について ◎ 都道府県別 世話人数について ◎ その他 ◎ 次回世話人会議開催日程について
議事等	<p>1 開会</p> <p>新田：これから、平成27年度第3回世話人会議を始める。この後の全国大会も、よろしくお願 いします。</p> <p>太田：本日は、時間に限りがあるので、特に報告事項のある方のみにご挨拶いただくこととする。 まずは、新世話人にご挨拶をお願いしたい。</p> <p>大和：初めまして、やまと@ホームクリニックを石川県金沢市で開業している大和です。第8回 東海北陸在宅医療推進フォーラムの開催を担当することになっている。開院して、まだ2年 半だが、皆様のご指導を頂きたい。石川県は、在宅医療に関しては不毛の地域で、在宅での がんの方の看取り率は、5.数%と、まだまだ低い。</p> <p>石賀：三重県四日市市から来た、いしが在宅ケアクリニックの石賀丈士です。がんの特化してい て、新規の6割くらいががん患者。看取りが多く、昨年で312名看取った。今後も地域で かかりつけ医と連携を取り、自宅で看取りができるような仕組みを作っていきたい。</p> <p>太田：次に陪席でご参加いただいている、国立長寿医療研究センターの原口先生お願いします。</p> <p>原口：7月の全国大会の開催が愛知だという事もあり、本日、声を掛けていただいた。国立長寿 医療研究センター 企画戦略局長の原口です。よろしくお願いします。</p> <p>太田：今回、東海地方の世話人が増えた。小笠原先生から近況を一言お願いしたい。</p> <p>小笠原：東海北陸は、7つの県すべてに世話人が揃った。在宅医療が進んでいる県とそうでない 県がある。これから皆と連携しながら、東海北陸全体でいい在宅医療をしているな、と言わ れるようになりたい。全国に質の高い在宅医療が広がるといい。</p> <p>太田：時間の関係で、皆様からのご挨拶は難しいが、久しぶりにご参加の川島先生お願いします。</p> <p>川島：在宅での看取り率でいえば、宮城県は、全国の上位1/3には入っている。東北全体をみる と、山形県が急に上がってきて、東北6県の中では、山形県が最も高い。上手く県を巻き込 んで進めているようだ。東北の政令指定都市は、仙台1市のみだが、政令指定都市の中では、</p>

仙台が最も在宅看取り率が高い。また、病院の死亡率が、政令指定都市の中では最も低く、64%位。第6次地域医療計画が進んでいるが、29年末までに、仙台市の在宅看取り率が3割を超し、病院看取り率が6割を切るのが目標。それに向かって進んでいる。

太田：ほかに報告事項がある方、お願いします。

山岡：大分は、現在在宅死率は最下位。しかし、老人ホームの数が増えているので、施設での看取り率は増えてきている。

太田：生活の中での看取りという意味では、高齢者施設での看取りも、在宅医療の領域と捉えられる。

川島：住まい・居宅・在宅とは、医療用ベッド以外を指している。認識を共通したい。

太田：事務局からの報告をする。入会状況は、微増。質を重視した会員であると考えている。次に、教育・研修局からの報告をお願いします。

和田：資料に沿って報告する。まず、在宅医療推進フォーラム地方版について、毎年、皆様のご尽力により行っている。勇美記念財団から100万円の助成を頂いている。勇美記念財団からの意向として、資料にあるように、6項目挙がっている。特に、医師会との連携をしっかりしてほしい、と勇美記念財団からは言われている。さらに、行政の担当者等にご参加いただけると良い。できる範囲でご協力いただきたい。

厚生労働省の在宅医療関連講師人材養成事業について、各地で、在宅医療の講師ができる方を養成する目的で行った。来年度も、勇美記念財団を中心に受託できるのではないかと考えている。日本在宅ケアアライアンスとして、この研修会を実施する可能性が高い。

事務局と共同してDVD「在宅医療」知っていますか？家で最期まで療養したい人に」を作成した。勇美記念財団に在庫がある。

DVD「はじめよう在宅医療」全3巻について、こちらも勇美記念財団に在庫あり、活用していただきたい。

今後の在宅医療推進フォーラム地方版について現在わかっているのは、千葉県10/16(日)、和歌山県10/29(土)、徳島県10/23(日)、宮古島10/29(土)・30(日)、他にわかっているところがあればお教えてください。

大和：10/16(日)の午後、石川県金沢市で開催予定。

和田：病院との連携研修会に対して、勇美記念財団から補助が頂ける。研修会を行いたい場合は、申し出て欲しい。

太田：中野先生からIT・コミュニケーションの報告をお願いします。

中野：特にないが、メーリングリストで活発に意見交換がされている。

太田：川島先生から、調査・研究局の報告をお願いします。

川島：研究事業については、みなさんそれぞれにアプライして行って欲しい。老健局の研究について、3/16までの締め切り。療養病床をどう在宅に戻していくかが、問題になっている。療養病床をすべて合わせると30万床、その中で介護療養病床は7万床弱。療養病床は、ADL評価と医療の重症度評価により9段階になっていて、それぞれに診療報酬点数が異なっている。それを在宅医療にも適用できるのではないかという考え方がある。2年後に診療報酬と介護報酬の同時改定がある。その時に、介護療養病床をどのくらい減らしていくかの議論が活発になっていくと思う。情報が入り次第ご連絡する。

新田：療養病床の検討会に参考人として出席したが、療養病床が減る分在宅での受け皿が必要。療養病床の診療点数の疾病別等について、中医協で議論され、日本医師会と検討することになる。そこで、在宅医療では、どのように疾病分類するのかという根本的な問題も含めて話さないと、次の課題が見えてこない。これから2年かけて、在宅の中身を分析していかざるを得ない。

太田：本日の大会長 鈴木先生、また、事務局長の永井先生お願いします。

鈴木：今日、明日とどうぞよろしくお願いします。今回の大会は、従来2列で行っていたが、3列に拡大しての開催。赤字覚悟であったが、事前申し込みで496名あり、東京都フォーラム

に126名、当日参加も60名程と考えると、650名程の参加が見込める。赤字は免れた。皆様のご協力に心から感謝する。大会事務局を担当して下さった、永井先生からもお願いします。

永井：第1回に続き事務局をさせていただいた。事前申し込みが500名程あり赤字は免れ、ほっとしている。皆様のお力で多くのお申し込みを頂けたこと、感謝している。ただ、この会場に、600名以上集まる事となり、会場の混乱も予想されるので、また、ご協力をお願いします。

太田：いつも、事務局をお引き受け頂き、ご苦労も多いことと思うが、具体的に、より協力してほしいこと等あれば。

永井：仙台でのプライマリケア学会で全国大会を開催しようという話の流れになったと記憶しているが、第1回から2回3回と東京での開催で、人も集まり定着してきたのかな、と思う。今後の在支連全国大会の位置づけを考える時期に来ているのではないか。ただ開催していくのではなく、この会で議論も必要と感じている。

太田：第4回の名古屋大会について、お願いします。

野田：第4回大会が、もう4か月後に迫っている。準備を進めるにあたり、第3回とほぼ同時進行になってしまった。今のところ順調に進んでいる。皆様のご参加をお待ちしています。詳しくは、事務局を担当している大石先生からお願いします。

大石：事務局長をしています。資料に沿って説明していく。勇美記念財団からの助成金は、3/18付で受領した。今回のテーマが多職種ということで、愛知県下の関係職能団体10数団体に後援をお願いしている。参加費について、第3回にも参加した方は値引きしようかとも思ったが、参加申し込みの値引きシステムを作るのに、18万かかってしまうため、断念した。医師・歯科医師は11,000円（当日12,000円）、その他5,000円（当日6,000円）とした。プログラムについては、シンポジウムはすべて決まった。ランチョンセミナーについては、講師は決定、座長は各協賛企業より、今日明日にお願いするかもしれない。その際にはお願いします。ホームページは、本日開設。本日、チラシ等配布している。ホームページは、随時更新していく。企業ブースについて、欲張って29ブース作ったが断られた企業もあり、苦戦している。抄録スポンサーについては、今、お願いしているところ。応援広告については皆様もご案内しますので、ご協力をお願いします。

太田：今日、明日、協賛企業から座長の依頼を受けた方は、是非、お受けください。テーマ「多職種協働で支える在宅医療のわ」この、ひらがなの「わ」についての思いは？

野田：平和の和・車輪の輪などすべての「わ」を含んだものにしようと、ひらがなにしている。チラシの中のイラストもひらがなの「わ」に多職種が「わ」になっているイメージ。

太田：世話人の皆様も是非、ご協力をお願いします。各地からのルートは良いですか。

野田：名古屋駅から5分以内で歩いてこられる会場にした。中部国際空港からは名古屋駅まで直通があり、名古屋（小牧）空港からもそう遠くはない。

太田：何かあれば、今日明日は、みなさま顔を合わせる機会も多いと思うので、ご相談ください。

次に第5回全国大会について、在宅医療が多職種で行われる以上、医師が中心ではあっても、歯科医師や薬剤師などの協力なしには進めることができないことから、薬剤師の連絡会、歯科医師の連絡会と一緒に、全国在宅医療医歯薬連合会というのを発足した。その連合会でも、是非大会を開催したいという機運が高まり、第5回全国大会を第1回全国在宅医療医歯薬連合会大会ということで開催する。プログラム等は検討していない。どのように開催していくかは議論しなくてはならない。会場を押さえる都合上、日程は決めた、2017年5月27日（土）・28日（日）にこの会場で開催する。東京ブロック在宅医療推進フォーラムと全国大会が合同で開催されているのと同じようなイメージ。是非、新しい形でのスタートでもあり、連合会での開催ではあるが、当会の立場はしっかりと伝えなければならない。7月の第4回全国大会までに大枠は決める必要がある。質問があれば。

永井：この会場で、行うのは困難ではないか。今回の大会でもいっぱい。そこに歯科医師、薬剤師が加わると狭すぎるのではないか。

太田：貴重なご助言ありがとうございます。歯科連絡会と薬剤師連絡会の会長・副会長・事務局長とで集まり、この会場での開催にしようという流れであったが、その際も、具体的にイメージしないまま話を進めてしまった。参加者は、1,000名程度と推測した。反省し、今回のご意見を基に、対応策を考える。

永井：今回大きな会場をすべて使って、800名程。歯科医師・薬剤師の会も含めると、1,000名は超えるのではないかと思う。

また、企画に関して、今まではメーリングリストでやり取りを行っていたが、なかなかちがが明かない部分もある。他の職種も入るのであれば、更に検討会をしっかりと設け、顔の見える状況でプログラムを煮詰めるようにしたほうが、話が進めやすい。

太田：当初、1,000名規模であれば、この会場がアクセス面からは良いのではないかと考えたが、永井先生からのご助言を受けて、今後、早急に検討する。名古屋での大会までに決められるよう、早速、日程調整し、皆で集まり議論を進める。

川島：この会と、在宅医学会とかプライマリケア学会とか在宅医療学会とかどこが違うのか。結局、同じようになってしまっていることを危惧している。この会のカラーが出ていないと思う。なぜこの会が設立されたのかと立ち返って議論することも必要ではないか。どの会に参加しても変わりがないと感じる。

太田：何か、ご提案があればお願いします。

川島：まずは、注意喚起で、もういちど考えてみようという提案。

太田：具体的にこういう方向で、というのがあればご提案頂きたい。

小笠原：日本において、どのような在宅療養支援診療所が必要か、国民に喜ばれるような、24時間対応で質の高い在宅医療を提供していく目的でできた制度。我々は、そのために必要なスキルなどを示せる。他の学会は、学問中心。この会は、厚生労働省など国民の幸せを願う人達がなぜ在宅療養支援診療所を作ってきたのか、という思いを汲みながら、いい在宅医療、スキルアップに特化していかないと価値がない。日本の在宅医療のモデル事業をやっていく。そこに多くの人を引き付けられるような魅力のある勉強会にしていけば、存続意義があると思う。

太田：この会の目的は、正しい在宅医療を日本にどう普及させるかということで、皆、頑張っていると思う。学術団体とは異なり、アカデミアではない。在宅関係の学会には、重複して入っている方が多く、同じ顔が見えるが、明確な目的は持っているつもりでいる。

中野：この会の方向性だが、私は、広げないほうが良いように思う。在宅医療をしている医師だけでこれだけ集まる会は唯一だと思う。多職種に開放するのはもちろん望ましいことだが、あくまでも、開催についてはこの会でしっかりおこなったほうが良いと思う。

太田：ご意向は良く理解できる。

太田：次、協議事項に移る。新世話人について、長崎・宮崎・静岡県に推薦が出ている。白髭先生から、安中先生について一言お願いします。

白髭：来年度の九州フォーラムを安中先生中心に開催することが決まっている。そろそろ若手に任せたいほうが良い、と動き出している。ドクターネットで一番若手の理事をしている。活動性も高く、適任かと思った。

太田：陪席も認めているし、この後、各県の世話人数について協議する。まずは、安中先生の世話人に関しては、ご異議がなければ世話人としてお願いしたいと思う。⇒承認

太田：外山先生ご推薦の石坂先生について、お願いします。

外山：中野先生に声を掛けられ世話人になったが、諸事情によりそろそろ世話人の引退を考えている。平成15年くらいから同じように在宅を一生懸命やってきた若手の仲間。来年度まで、その後は、宮崎の在宅の歴史もすべて知っている石坂先生に引き継いで頂きたいと思っている。宮崎には、宮崎キョウケアネットというのがありますが、その世話人がそろそろ引退して、世話人ジュニアというのを立ち上げた。今後はジュニアがメインとなって開催していく。若返りも必要かと思い、若手に引き継いでいきたい。

	<p>太田：石坂先生、一言お願いします。</p> <p>石坂：できるだけ、やらせていただきたいと思う。</p> <p>太田：外山先生は来年度までという事で、石坂先生にも世話人に就いて頂きたい。 ⇒承認</p> <p>太田：石垣先生ご推薦の岡先生について、お願いします。</p> <p>小笠原：石垣先生から言付かっている。石垣先生は、日本在宅医学会の副代表理事というお立場での世話人会への参加とし、静岡県世話人としては、静岡県在宅療養支援診療所連絡会の会長の岡先生にお願いしたいという事。</p> <p>太田：岡先生の世話人就任について、ご異議はございませんか。 ⇒承認</p> <p>太田：世話人数について、当初、定数は設けていなかった。在宅医療も地方分権の時代、地方でどんな活動をしているのか集まって、知恵を出し合い、日本の在宅医療について考えようという会で、明確な定員数はなかった。人口規模で、60万～200万人くらいの県が大半。300万人以上の県は少数。200万人くらいまでの県は、1人位。東京都は、現在3名位いる。200万～300万は、グレーゾーン。その都度、世話人会で議論して決めていきたい。300万人前後で定数を増やす、という事務局案だが、ご意見は。</p> <p>まだ、世話人のいない県もあり、各県に1人の世話人をお願いすることを目標にしたいと思う。陪席は認める。事前に伝えていただければ、席は用意する。 ⇒承認</p> <p>太田：次回世話人会にういて、名古屋での第4回大会の昼食時に開催したい。 ⇒承認</p> <p>太田：平成27年度第3回世話人会を閉会する。</p>
資料	<p>○議事次第 ○一般社団法人 全国在宅療養支援診療所連絡会 世話人名簿・会員状況</p> <p>○教育・研修局より ○第4回全国大会事務局より報告事項・チラシ</p> <p>○全国在宅療養支援診療所連絡会 平成27年度第2回社員総会 議事録</p>
事務局	岩本 佳代子